

(参考資料)

市の取組における
まちづくり点検状況

能代市
平成23年10月

目 次

1	輝きとぬくもりのまち	
(1)	コミュニティで支え合う特色ある地域づくり	1
(2)	学び合い高め合って地域に活かす生涯学習	2
(3)	地域で育み社会で支える子育て・子ども支援	4
(4)	次代を担う子どもの成長を支える学校教育	5
(5)	子どもも大人も心と体の健康づくり	6
(6)	地域で活躍する元気な高齢者	8
(7)	地域で社会で自立する障害者	10
(8)	ふるさとの誇りを受け継ぐ文化・芸術	12
(9)	だれもが気軽に楽しめるスポーツ	14
(10)	認め合い支え合う社会づくり	16
2	元気とうるおいのまち	
(1)	環境を核とした活力ある産業創出	17
(2)	雇用を産み出す企業立地	19
(3)	力強くて持続する農業	20
(4)	山・川を生かす林業・木材産業・水産業	22
(5)	まちのにぎわいをつくり出す商業	24
(6)	豊かな自然とその恵みを活かす観光	25
(7)	自然と共生し地域で支える環境保全	26
(8)	資源を大切にし社会を持続できる衛生環境	27
3	安全と安心のまち	
(1)	安全な暮らしを守る防災・防犯体制	28
(2)	機能的で利用しやすい道路・交通ネットワーク	30
(3)	効果的で調和のとれた土地利用	32
(4)	快適で暮らしやすい住環境	33
(5)	安心でき健康を保てる医療体制	35
(6)	不安のない生活を支える社会保障制度	36
(7)	効率的で住民サービスに資する行財政基盤	37

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(1)	コミュニティで支え合う特色ある地域づくり
めざす姿や状態	①	ボランティアなどの活動をしやすい環境があり、情報や目標を共有できて交流や連携が進むこと。
—評価の目安— (^_^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	自治会や町内会などの活動が活発になり、地域の課題解決や、地域資源を活かした身近なまちづくりにつながること。
	③	普段から地域で交流や協力、支え合いがあり、地域コミュニティが良好であること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(-_-) 横ばい	1	自治会・町内会やボランティア活動など市民活動に参加することを心がけている市民の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1" style="display: none;"> <caption>自治会・町内会やボランティア活動など市民活動に参加することを心がけている市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>37.8%</td></tr> <tr><td>H20</td><td>39.3%</td></tr> <tr><td>H21</td><td>37.9%</td></tr> <tr><td>H22</td><td>37.2%</td></tr> <tr><td>H23</td><td>37.9%</td></tr> <tr><td>H24</td><td>50.0%</td></tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	37.8%	H20	39.3%	H21	37.9%	H22	37.2%	H23	37.9%	H24	50.0%	<p>福祉分野のボランティアをはじめ、除雪ボランティアや学校支援ボランティアなど、さまざまなボランティア活動が広まっており、市民活動への参加意欲も高まりつつある一方で、自治会・町内会主催行事への参加者が、ある程度固定されていることも想定されるため、結果的に横ばいに推移したのではないかと考えられる。</p>	<p>市民活動への参加意欲の高まりを、地域づくりや地域コミュニティの再生に活かせるような取組を進める必要がある。</p> <p>また、自治会・町内会主催行事への参加促進を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民へのボランティア情報の発信や、団体間の連携のための仕組みの検討。 市民活動を支援するため、市民活動支援センターを設置した。
年度	割合																	
H19	37.8%																	
H20	39.3%																	
H21	37.9%																	
H22	37.2%																	
H23	37.9%																	
H24	50.0%																	

(-_-) 横ばい	2	ボランティアセンター登録者数																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1" style="display: none;"> <caption>ボランティアセンター登録者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>5,148人</td></tr> <tr><td>H20</td><td>5,243人</td></tr> <tr><td>H21</td><td>5,641人</td></tr> <tr><td>H22</td><td>4,863人</td></tr> <tr><td>H23</td><td>5,023人</td></tr> <tr><td>H24</td><td>6,000人</td></tr> </tbody> </table>		年度	登録者数	H19	5,148人	H20	5,243人	H21	5,641人	H22	4,863人	H23	5,023人	H24	6,000人	<p>22年は、前年に比べて個人登録者数、登録団体会員数とも減少し、5千人を割り込んだが、23年は、個人登録者数、登録団体会員数とも増加に転じており、19年の頃と比べると、ほぼ横ばいの状態といえる。</p> <p>23年3月に発生した東日本大震災により、ボランティア意識の変化に影響していることも要因として考えられる。</p>	<p>ボランティアに意欲があっても、登録制度を知らない人もいると考えるため、制度の周知に努めていく必要がある。あわせて、既存団体同士との連携や新たな団体の育成に努めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア登録者が活動しやすい環境づくりや、ボランティア登録制度の周知方法。
年度	登録者数																	
H19	5,148人																	
H20	5,243人																	
H21	5,641人																	
H22	4,863人																	
H23	5,023人																	
H24	6,000人																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(2)	学び合い高め合って地域に活かす生涯学習
めざす姿や状態	①	学べる機会があり、学んだ知識や技能、技術が、地域や社会に活かせること。
-評価の目安- (^~^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	体験学習などを通じて、親子や地域住民の交流が深まり、人づくりや地域づくりにつながること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(-_-) 横ばい	3	知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>知識や特技を地区活動や行事で発揮することを心がけている市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>19.0%</td></tr> <tr><td>H20</td><td>22.4%</td></tr> <tr><td>H21</td><td>19.5%</td></tr> <tr><td>H22</td><td>15.4%</td></tr> <tr><td>H23</td><td>21.1%</td></tr> <tr><td>H24</td><td>25.0%</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合	H19	19.0%	H20	22.4%	H21	19.5%	H22	15.4%	H23	21.1%	H24	25.0%	<p>減少傾向から回復し、横ばいへ推移した。 まちづくり関連事業や講座開催等の取組を継続してきたことの結果が現れたと考えられる。</p>	<p>学習者が知識・特技を生かす場の提供が必要である。</p>	<p>・地域住民のニーズに即した講座開催等の検討。 ・市民意識調査の指標を基にしているため調査年度毎の変動が大きく、達成が困難なことが予想される。身近なところで、長年の経験や知識を地区活動に生かすことも大事であるという市民の意識付けを図ることで改善したい。</p>
年度	割合																
H19	19.0%																
H20	22.4%																
H21	19.5%																
H22	15.4%																
H23	21.1%																
H24	25.0%																

(^~^) 順調	4	自主学習グループ数（公民館登録）															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>自主学習グループ数（公民館登録）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>257</td></tr> <tr><td>H20</td><td>276</td></tr> <tr><td>H21</td><td>278</td></tr> <tr><td>H22</td><td>269</td></tr> <tr><td>H23</td><td>285</td></tr> <tr><td>H24</td><td>285</td></tr> </tbody> </table>	年度	数	H19	257	H20	276	H21	278	H22	269	H23	285	H24	285	<p>目標値をやや下回った。 グループ会員の高齢化に伴う解散や利用施設の分散化のためと考えられる。</p>	<p>自主学習グループが増えることで、様々な活動の活発化につながり、地域づくりに活かされていくことになる。今後も新グループの結成等がスムーズにできるように積極的に働きかける必要がある。</p>	<p>・自主学習グループの学習成果発表の場を確保し、学習活動に対する理解と生涯学習への積極的な参加を呼びかける。</p>
年度	数																
H19	257																
H20	276																
H21	278																
H22	269																
H23	285																
H24	285																

(-_-) 横ばい	5	自主学習グループ会員数（公民館登録）															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>自主学習グループ会員数（公民館登録）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>4,249</td></tr> <tr><td>H20</td><td>4,529</td></tr> <tr><td>H21</td><td>4,504</td></tr> <tr><td>H22</td><td>4,140</td></tr> <tr><td>H23</td><td>4,500</td></tr> <tr><td>H24</td><td>4,500</td></tr> </tbody> </table>	年度	人数	H19	4,249	H20	4,529	H21	4,504	H22	4,140	H23	4,500	H24	4,500	<p>目標値を下回った。 グループ会員の高齢化に伴うグループの解散や構成員数の減少、未登録団体の増加が考えられる。</p>	<p>若い世代の学習グループへの加入や新グループの結成をどのように促していくかが課題である。</p>	<p>・若い世代のニーズに即した講座開設等の検討をする。</p>
年度	人数																
H19	4,249																
H20	4,529																
H21	4,504																
H22	4,140																
H23	4,500																
H24	4,500																

(^^) 順調	6	生涯学習指導者、ボランティア登録者数																
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策															
<table border="1" data-bbox="159 313 478 560"> <caption>生涯学習指導者、ボランティア登録者数 (グループ数)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>グループ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>27組</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>27組</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>34組</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>34組</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>37組</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>40組</td> </tr> </tbody> </table>	年度	グループ数	H19	27組	H20	27組	H21	34組	H22	34組	H23	37組	H24	40組	<p>順調に推移している。 H22年度は二ツ井地域の新規登録者の掘り起こしに成功し、増加となった。</p>	<p>指導者には相応の経験と知識が必要であり、新規指導者の登録が課題となっている。</p>	<p>・引き続き、自主学習グループや二ツ井地域での登録者の掘り起こしに努める。</p>	
年度	グループ数																	
H19	27組																	
H20	27組																	
H21	34組																	
H22	34組																	
H23	37組																	
H24	40組																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(3)	地域で育み社会で支える子育て・子ども支援
めざす姿や状態	①	安心して子育てができ、子育てに喜びを感じられること。
-評価の目安- (^_^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	地域や社会で子どもを守り育てる意識が浸透し、子育てを支え合えること。
	③	地域住民と子どもの交流があり、子どもが心身ともに元気で健やかに成長すること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^_^) 順調	7	子育てを地域で支えあう雰囲気があると思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>保育所、幼稚園、子育て支援センターが行っている子育て支援事業並びに家庭、地域及び企業と一体となって取り組んでいる「めんCHOOCO事業」等の実施により地域での交流が広がり順調に推移していると考えられる。</p>	<p>すべての子育て家庭が、安心して子育てができるよう、地域全体で支え合う取り組みが必要であると考えられる。</p>	<p>・平成22年3月策定の次世代育成支援後期行動計画に基づく、地域における子育て支援サービスの充実などの取組を推進する。</p>

(^_^) 順調	8	ファミリーサポートセンター会員登録数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>広報紙への掲載、保育所・幼稚園へのチラシ配布、子育て支援センターや業務委託先が実施している「ひろば」等での勧誘により、順調に推移している。</p>	<p>サービスを提供する会員の安定確保が必要であり、新生児の保護者への周知など、今後とも広報を行う。</p>	<p>・ポスターの掲示、案内チラシの配布など、委託先と連携した取組を継続する。</p>

(-_-) 横ばい	9	ファミリーサポート事業利用件数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>依頼会員は、日常的な利用よりも、緊急時の利用を想定して入会している人が多いと考えられる。 また、提供会員自身が、就職することで、稼働時間に制限を受けていることや安心して子どもを預けられるか、依頼会員が慎重になるなどといった地域性も考えられる。 保育所による一時預かり、延長保育等のサービスの充実が、利用件数の減少になっていると考えられる。</p>	<p>緊急時以外の利用もできることや依頼会員のプライバシーが守られ、安心して子どもを預けられる環境であることを周知していく必要がある。 事業について、依頼会員が利用しにくい要因等があるかどうか把握が必要と考えられる。</p>	<p>・提供会員の確保を図りながら依頼会員に対しては、安心して預けられる事業と認識してもらうようPRや提供会員との交流等を継続する。 ・利用者の実態を把握しながら事業のあり方を検討する。</p>

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(4)	次代を担う子どもの成長を支える学校教育
めざす姿や状態	①	子どもがより良い環境で学ぶことができ、子どもの個性や能力が伸びること。
-評価の目安- (^~^)^ 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	学校が地域の活動の場として開かれ、地域と連携した教育が進むこと。
	③	子ども一人ひとりが命の大切さを学び、人との関わり方、社会との関わり方を身に付けられること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^~^)^ 順調	10	子どもが地区でのびのびと育っていると思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>ふるさと学習や学校でのさまざまな体験活動によって、地域の理解や人々との交流につながっており、地域住民からも学校の活動や行事への積極的な参加・協力が得られ、子どもの安全面の気配りや目配りがなされている。</p> <p>また、特別支援教育支援員や心の教室相談員などの配置により、児童生徒一人ひとりの実態に合った対応ができ、安全安心な生活や学習の環境が整ってきていると考えられる。</p> <p>校舎の改築や耐震補強工事の完了により、ハード面での環境整備も順調に整っている。</p>	<p>ふるさと学習を充実し、地域住民や企業・団体との活動や交流など地域行事への参加を促すとともに、子どもの安全面を確保しながら、登下校時のあいさつなど地域住民との声かけの場面を増やす。</p> <p>また、特別支援教育支援員や心の教室相談員などの活用を促進し、子どもたちの悩みなどに対応する。</p> <p>学習状況調査については、調査結果の分析と対策を情報提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアを継続して実践、充実を図ることやふるさと教育を通して、地域の教育力を活かす取り組みを一層増やす。 ・特別支援教育支援員の維持、充実を図る。 ・学習状況調査や学校評価の結果を分析し、情報を共有して、学校・家庭・地域住民の連携や協力を推進する。

(^~^)^ 順調	11	耐用年数を超える学校数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>耐用年数を超える小学校5校のうち3校は平成20年3月に閉校、残り2校は平成22年3月に新校舎が完成し、7月から供用開始している。</p>	<p>2校の新校舎完成により、耐用年数を超える小中学校は無くなった。</p>	<p>(順調に推移。)</p>

(^~^)^ 順調	12	耐震基準を満たす学校数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>耐震補強が必要な非木造校舎4校について、平成21年度に1校、平成22年度に3校の補強工事を実施した。これにより、非木造校舎全てで耐震基準を満たした。また、小学校2校の新校舎完成により、木造校舎全てで耐震基準を満たした。</p>	<p>4校の非木造校舎の耐震補強、2校の木造校舎の完成により、全ての小中学校で耐震基準を満たす。</p>	<p>(順調に推移。)</p>

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(5)	子どもも大人も心と体の健康づくり
めざす姿や状態	①	普段から健康を意識して生活し、生涯を通して健康でいられること。
-評価の目安- (^_^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	身近で悩みごとなどの相談ができ、心の健康が保たれること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(-_-) 横ばい	13	からだが健康だと思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>平成20年度からの特定健診開始や平成23年3月の県がん対策推進条例による啓発などにより、メタボリックシンドロームやがん予防等健康に関する市民の意識は高まりつつあるが、健診受診や生活習慣改善などの行動に結びついていない市民がまだ多いことが予想される。このことから、健康に不安を感じている人が依然多いのではないかと考えられる。</p>	<p>健康になりたいという思いはあるが、主体的な健康づくり行動に結びついていない市民が多いことが予想されるため、市民が行動を起こすきっかけとなる具体的な行動計画を立案し、多くの市民が自分にあった健康づくり行動ができる方向で調整していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによる市民の健康に関する意識調査の実施。 ・市民を含むできるだけ多くの分野の関係者によるこれならできるといふ具体的な行動計画立案と行動化に向けた調整。 ・特定健診および各種がん検診受診啓発方法の再検討。

(-_-) 横ばい	14	心が健康だと思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>心の健康には、地域や社会の人と人のつながりを含む様々な社会的環境要因が関与しているものと考えられるが、東日本大震災以降については、被災地支援をする立場の自治体住民にも、人のつながりなどについて良い方向での意識変化が出てきていると感じられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治（町内）会長・民生委員・健康推進員等の地域のキーパーソンとともに、地域をつなぐを深めていくほか、職場で働く市民の心の健康にも働きかけをおこし、うつや追い込まれる市民を減らしていく。 ・地域の健康教室等で、人のつながりや生きがいがいづくりについて啓発を継続し、心の健康度を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴ボランティア組織等の支援連携。 ・職場での自殺予防ぬくもり声かけキャンペーン活動継続。

(>_<) 不調	15	健康づくりサークル会員数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>昭和59年に始まった健康づくりサークル活動だが、社会の変化に伴うニーズの多様化やメンバーの高齢化から、新たなサークルの拡大は進んでいない状況にあり、健康づくり啓発取り組み方法の見直しが必要と考えられる。</p>	<p>健康になりたいという思いはあるが行動できていない市民が、自分にあった健康づくりをみつけだし行動できるよう、具体的な方法を多くの分野の市民とともに開発し、運動習慣等の良い生活習慣行動を継続定着させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を含むできるだけ多くの分野の関係者による誰もがこれならできるといふ具体的な行動計画立案と行動化に向けた調整。 ・目標を「健康になろうと行動している市民の増加」へ移行。

(>_<) 不調	16	がん死亡率（人口10万人対）																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>がん死亡率（人口10万人対）推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>死亡率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>407.8</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>412.4</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>420.6</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>445.7</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>367</td> </tr> </tbody> </table>		年度	死亡率	H19	407.8	H20	412.4	H21	420.6	H22	445.7	H23	-	H24	367	<p>がん死亡率が、秋田県の率を更に上回っていることについては、検診受診による早期発見・早期治療が遅れぎみなことや、発がん要因である喫煙や食生活など生活習慣改善の知識はあっても行動に結びついていないことが考えられる。</p>	<p>各種がん検診受診による早期発見・早期治療の必要性について啓発を継続していくとともに、禁煙・食生活改善など生活習慣改善を実行に結びつけていくための具体的な方法を多くの分野の市民とともに開発して広め、がんにより死亡する市民を減らしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定年齢対象者のがん検診受診料助成。 ・禁煙・食習慣・運動習慣等生活習慣改善の具体的な行動計画立案と行動化に向けた調整。
年度	死亡率																	
H19	407.8																	
H20	412.4																	
H21	420.6																	
H22	445.7																	
H23	-																	
H24	367																	

(^~^) 順調	17	自殺死亡率（人口10万人対）																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>自殺死亡率（人口10万人対）推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>死亡率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>67.4</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>47.3</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>38.1</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>45.4</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>37.1</td> </tr> </tbody> </table>		年度	死亡率	H19	67.4	H20	47.3	H21	38.1	H22	45.4	H23	-	H24	37.1	<p>自殺予防対策として官/民/学が連携し、手探りで考えながらそれぞれの立場で動いてきたことが、悩み苦しみ自殺を考えていた人に、ある程度届いたのではないかと考えられるが、まだ目標とする秋田県の自殺死亡率を上回っている状況にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悩み自殺を考えるほど追い込まれている人に気づき、声をかけあえる相談体制と問題解決支援のための関係部署・関係機関のネットワーク構築。 ・自治（町内）会長・民生委員・健康推進員等の地域のキーパーソンとともに、地域のつながりを深めていくほか、職場で働く市民の心の健康にも働きかけ、うつや自殺に追い込まれる市民を減らしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防庁内連絡会議 ・のしる健康21推進委員会自殺予防ネットワーク ・自殺予防庁内窓口職員研修 ・職場での自殺予防ぬくもり声かけキャンペーン活動
年度	死亡率																	
H19	67.4																	
H20	47.3																	
H21	38.1																	
H22	45.4																	
H23	-																	
H24	37.1																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(6)	地域で活躍する元気な高齢者
めざす姿や状態	①	高齢になっても住み慣れた家庭や地域で、健康でいきいきと自立した生活ができること。
-評価の目安- (^~^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	高齢者が培った知識と経験を生かして、社会的な役割を持ち、生きがいや地域の活力につながること。
	③	地域住民やボランティアなどとの交流やその支援が、高齢者の自立を支えること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(>_<) 不調	18	高齢者人口に対する自立高齢者率	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>第3期介護保険事業計画期間（18～20年度）では、要援護者の出現率は横ばいとなっていたが、第4期介護保険事業計画期間（21～23年度）では、年々要援護者が増え、目標値を下回っている。後期高齢者が増えたことに加え、介護環境が整備されたことや、医療機関への長期入院が抑制されたことなどが考えられるが、健康づくりや介護予防により要援護者の出現を抑制しなければ、目標達成は厳しい状況である。</p>	<p>要援護者の出現率は、年齢を重ねるごとに上がっていく傾向があり、今後、人口のピークである団塊の世代が年齢を重ねると、要援護者の出現率がさらに上がることが予想されるため、目標達成に向けて効果が高い施策を研究し、展開していく。</p>	<p>介護予防の効果について、先進事例を参考に本市の実例なども検証しながら、予防効果が高い施策を展開することとし、後期高齢者になっても自立して生活できる方が増えるよう、第5期介護保険事業計画の中に盛り込んでいきたい。</p>

(-_-) 横ばい	19	自治会・町内会やボランティア活動など市民活動に参加することを心がけている市民(高齢者)の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>豪雨災害、秋田わか杉国体等を経験し、住民のボランティア意識が高まってきていたが、ここ2年は数値が伸びていない。 平成23年6月に実施した高齢者福祉・介護保険に関するニーズ調査では、約55%の人が何らかの地域活動に参加しているという結果が出ており、まだまだ参加意欲はあるものと思われる。</p>	<p>今後も引き続き、市民の参加意識の高揚を図るとともに、新たに参加意識を持つ人を増やしていく必要がある。そのため、参加者の輪を広げるための活動や、参加者への特典といった自発的に参加したくなる仕組みなど、より参加しやすい環境を整えることも検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアなどの市民活動の啓発。 ・ボランティア活動のポイント制など、多くの高齢者が楽しみながら参加できる仕組みの検討。

(-_-) 横ばい	20	シルバー人材センターの登録会員数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>加入促進のための入会説明会等を開催し、新たに53名が入会したが、病気・加齢等の理由で59名が退会し、6名の減少となった。</p>	<p>市民に向けた事業のPRに努め、増収を図り、団体の自立を促進する。</p>	<p>今後も多くの市民にシルバー事業の普及啓発を行い、会員による「一人紹介運動」や女性会員の増強を呼びかける。</p>

(-) 横ばい		21	シルバー人材センターの就業延人員																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因		目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>就業延人員の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>就業延人員 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>40,029</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>41,824</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>38,252</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>38,376</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>39,320</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>42,030</td> </tr> </tbody> </table>		年度	就業延人員 (人)	H19	40,029	H20	41,824	H21	38,252	H22	38,376	H23	39,320	H24	42,030	<p>猛暑によるアメシロ駆除の依頼などで受注件数が増加し、就業延人員が前年より増加した。</p>		<p>受注件数は増加したものの、契約金額は、長期化する景気低迷の影響もあり、3年連続前年度を下回った。</p>	<p>(順調に推移しているので取組みを維持。)</p>
年度	就業延人員 (人)																		
H19	40,029																		
H20	41,824																		
H21	38,252																		
H22	38,376																		
H23	39,320																		
H24	42,030																		

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(7)	地域で社会で自立する障害者
めざす姿や状態	①	障害があっても住み慣れた家庭や地域で、生きがいを持って自立した生活ができること。
-評価の目安- (^-^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	障害者が個性や能力を生かして社会参加できること。
	③	地域住民やボランティアなどとの交流やその支援が、障害者の自立を支えること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^-^) 順調	22	障害者計画に基づき入所施設から地域生活へ移行する人数															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>障害者計画に基づき入所施設から地域生活へ移行する人数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	人数	H19	0人	H20	1人	H21	4人	H22	9人	H23	12人	H24	13人	<p>障害者自立支援法の施行に伴い、退所後の福祉サービス体制が整ったことで、各施設において地域移行が可能と判断された場合は、積極的に在宅サービスを利用した地域生活への移行に取り組んでいることにより、移行者の増加につながった。</p>	<p>グループホーム、ケアホーム、福祉ホームについて、社会福祉法人、医療法人等による設置を促進していく必要がある。</p> <p>自立した在宅生活が可能となるよう、就労や余暇活動の場を充実させる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が共同生活するグループホーム等の居住系サービスや、就労系サービスを行う事業者への支援。 ・相談支援体制の強化。 ・障がい者の余暇活動の場である地域活動支援センターにおけるメニューの充実。
年度	人数																
H19	0人																
H20	1人																
H21	4人																
H22	9人																
H23	12人																
H24	13人																

(^-^) 順調	23	事業所における障害者雇用率															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>事業所における障害者雇用率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>雇用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>2.31%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>2.45%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>2.37%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>2.54%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>2.66%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>2.60%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	雇用率	H19	2.31%	H20	2.45%	H21	2.37%	H22	2.54%	H23	2.66%	H24	2.60%	<p>職業安定所が、法に基づいた雇用率達成のため、活動に力を入れていることや、雇用側の理解が深まってきていることにより、目標を上回っている。</p> <p>しかしながら、経済状況が障害者雇用率にも大きく影響するものであり、大きな伸びは期待できない。</p>	<p>目標は上回ったものの、今後の経済状況によっては、雇用率が低下することも考えられるため、さらなる障がいのある人の一般就労の拡大のため、行政・施設・事業者・関係団体による情報の共有化を図り、求職者、求人者の要望に対応していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能代市地域自立支援協議会等における関係機関・団体によるネットワークの構築。 ・障害者就業・生活支援センターの周知。
年度	雇用率																
H19	2.31%																
H20	2.45%																
H21	2.37%																
H22	2.54%																
H23	2.66%																
H24	2.60%																

(^-^) 順調	24	障害を持つ人も社会参加できる環境が整っていると思う市民の割合															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>障害を持つ人も社会参加できる環境が整っていると思う市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>12.9%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>17.6%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>13.9%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>11.2%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>15.0%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>20.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	H19	12.9%	H20	17.6%	H21	13.9%	H22	11.2%	H23	15.0%	H24	20.0%	<p>ひまわり号やであいのコンサート、障害者スポーツレクリエーションや障がい者ふれあい作品展などの継続した取組により、障がいのある人への理解などが深まってきていると考えられる。</p> <p>しかしながら、指標の割合は安定しておらず、障がい者に関する大きな行事等の後には、一時的に割合が上がる傾向が見られる。</p>	<p>ひまわり号やであいのコンサート等は障がいのある人が多く参加する行事であるが、障がいのある人への理解を広めていくためには、更なる交流の場が必要である。そのため、障がいのある人が障がい者に気にとることなく、健常者と同じように参加し、活動できる環境を整えていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等のバリアフリー化の促進はもちろんだが、各種行事のバリアフリー化が必要と考える。 ・各種行事の主催者が障がいのある人に目を向け、気軽に参加できるような環境を整えることが必要と考える。
年度	割合																
H19	12.9%																
H20	17.6%																
H21	13.9%																
H22	11.2%																
H23	15.0%																
H24	20.0%																

(->) 不調	25	手話サークル登録者数（ボランティアセンター）																
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策															
<table border="1"> <caption>手話サークル登録者数（ボランティアセンター）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>63人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>72人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>71人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>70人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	登録者数	H19	63人	H20	72人	H21	71人	H22	48人	H23	38人	H24	70人	<p>高齢や転勤、自己都合による脱退が多く、新規登録者数が少ないため。なお、H22の減少は、小学生グループの登録者が卒業と同時に多数脱退したため。</p>	<p>手話サークルに関する情報やサークルの活動状況などを市民に周知して、新規登録者を増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターへのボランティア登録の際、手話ボランティアについて周知する。 ・広報のしろ・市ホームページによる手話サークルの情報提供を行う。 ・手話奉仕員養成講座修了者に対し、手話サークルの周知及び勧誘を行う。 	
年度	登録者数																	
H19	63人																	
H20	72人																	
H21	71人																	
H22	48人																	
H23	38人																	
H24	70人																	

(-_) 横ばい	(2)	ボランティアセンター登録者数																
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策															
<table border="1"> <caption>ボランティアセンター登録者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>5,148人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>5,243人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>5,641人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>4,863人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>5,023人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>6,000人</td> </tr> </tbody> </table>	年度	登録者数	H19	5,148人	H20	5,243人	H21	5,641人	H22	4,863人	H23	5,023人	H24	6,000人	<p>22年は、前年に比べて個人登録者数、登録団体会員数とも減少し、5千人を割り込んだが、23年は、個人登録者数、登録団体会員数とも増加に転じており、19年の頃と比べると、ほぼ横ばいの状態といえる。</p> <p>23年3月に発生した東日本大震災により、ボランティア意識の変化に影響していることも要因として考えられる。</p>	<p>ボランティアに意欲があっても、登録制度を知らない人もいると考えるため、制度の周知に努めていく必要がある。あわせて、既存団体同士の連携や新たな団体の育成に努めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録者が活動しやすい環境づくりや、ボランティア登録制度の周知方法。 	
年度	登録者数																	
H19	5,148人																	
H20	5,243人																	
H21	5,641人																	
H22	4,863人																	
H23	5,023人																	
H24	6,000人																	

(^-) 順調	26	公共施設等のバリアフリー化の6項目クリア率																
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策															
<table border="1"> <caption>公共施設等のバリアフリー化の6項目クリア率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>クリア率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>5.4%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>5.6%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>9.2%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>8.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	クリア率	H19	5.4%	H20	5.6%	H21	5.5%	H22	5.5%	H23	9.2%	H24	8.0%	<p>6項目クリア率が目標を上回った。これは施設の更新等によるもので、新たに下記の4つの施設が6項目をクリアした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・檜山地域センター ・第四小学校 ・能代河畔公園 ・ニツ井小学校 	<p>目標は上回ったものの、施設数は、109施設中10施設とまだまだ少なく、介護施設や学校が主である。今後も財政状況等を考慮しながら、可能な施設からバリアフリー化を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5項目をクリアしている施設が8施設あるので、残り1項目を整備する。 ・施設の所管課へ整備を依頼する。 	
年度	クリア率																	
H19	5.4%																	
H20	5.6%																	
H21	5.5%																	
H22	5.5%																	
H23	9.2%																	
H24	8.0%																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(8)	ふるさとの誇りを受け継ぐ文化・芸術
めざす姿や状態	①	民俗芸能や民俗行事などを通じて、世代間交流が進み、地域住民の結びつきが深まること。
—評価の目安— (^~^)^ 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	文化・芸術の活発な活動により、人の心が豊かになること。
	③	地域の歴史や文化への理解が深まり、地域に愛着や誇りを持てること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(-_-) 横ばい	27	地区の祭りや七夕・民俗芸能などへ参加を心がけている市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>33.7% 33.5% 33.8% 31.6% 31.2% 42.0%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>指標は、微減で推移している。</p> <p>これまで、本市においては従来からのコミュニティが比較的良好に維持されていると考えられてきたが、近年の社会構造の変化は本市にも及んでおり、多くの地区で高齢者世帯の増加や若年人口の減少等の現象が進行しているものと考えられる。</p>	<p>お祭などの地区行事等への参加は、地域コミュニティへの帰属意識の現れでもあり、これらの活動への参加を促していく必要がある。また、地域や地区そのものへの関心を高めるような取組も必要となっている。</p> <p>掲げられた課題については、関係者の意識に関わる部分が多いこともあり、市教委としては有効な対策がとりづらい。</p>	<p>・地区の祭りや七夕・民俗芸能の周知を行い、参加を図る。</p>

(^~^)^ 順調	(4)	自主学习グループ数（公民館登録）	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>257団体 276団体 278団体 269団体 285団体</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>目標値をやや下回った。</p> <p>グループ会員の高齢化に伴う解散や利用施設の分散化のためと考えられる。</p>	<p>自主学习グループが増えることで、様々な活動の活発化につながり、地域づくりに活かされていくことになる。今後新グループの結成等がスムーズにできるように積極的に働きかける必要がある。</p>	<p>・自主学习グループの学習成果発表の場を確保し、学習活動に対する理解と生涯学習への積極的な参加を呼びかける。</p>

(-_-) 横ばい	(5)	自主学习グループ会員数（公民館登録）	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>4,249人 4,529人 4,504人 4,140人 4,500人</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>目標値を下回った。</p> <p>グループ会員の高齢化に伴うグループの解散や構成員数の減少、未登録団体の増加が考えられる。</p>	<p>若い世代の学習グループへの加入や新グループの結成をどのように促していくかが課題である。</p>	<p>・若い世代のニーズに即した講座開設等の検討をする。</p>

(-_-) 横ばい	28	能代市民俗芸能連合会加盟団体数															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>能代市民俗芸能連合会加盟団体数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>19団体</td></tr> <tr><td>H20</td><td>19団体</td></tr> <tr><td>H21</td><td>19団体</td></tr> <tr><td>H22</td><td>19団体</td></tr> <tr><td>H23</td><td>19団体</td></tr> <tr><td>H24</td><td>20団体</td></tr> </tbody> </table>	年度	団体数	H19	19団体	H20	19団体	H21	19団体	H22	19団体	H23	19団体	H24	20団体	<p>民俗芸能は各地域において幾世代にもわたって受け継がれてきたが、近年の社会構造の変化などにより、その継承活動は年々困難になってきている。</p> <p>指標は横ばいであるが、全国的に厳しい状況のなかで団体数を維持していることは、市民俗芸能団体連合会への支援策が一定の効果をもたらしているものと考えられる</p>	<p>目標を達成するためには、現在休止あるいは断絶した民俗芸能等を復活させなければならないが、現状では極めて困難である。さらに、各地域における民俗芸能の継承活動も、保持者の高齢化と後継者となる若年層の減少により困難となっている団体もある。</p> <p>民俗芸能の継承活動は地域づくりにもつながる有意義な活動であるため、今後も各団体での後継者育成活動や公演等に対する支援を継続していく。</p>	<p>掲げられた課題については、関係者の意識に関わる部分が大きいこともあり、即効性の対策はない。これまでどおり民俗芸能連合会への支援を継続するとともに、映像資料のアーカイブ化などを進めたい。</p>
年度	団体数																
H19	19団体																
H20	19団体																
H21	19団体																
H22	19団体																
H23	19団体																
H24	20団体																

(>_) 不調	29	文化財保護協会の会員数															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>文化財保護協会の会員数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>会員数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>121人</td></tr> <tr><td>H20</td><td>105人</td></tr> <tr><td>H21</td><td>101人</td></tr> <tr><td>H22</td><td>98人</td></tr> <tr><td>H23</td><td>99人</td></tr> <tr><td>H24</td><td>150人</td></tr> </tbody> </table>	年度	会員数	H19	121人	H20	105人	H21	101人	H22	98人	H23	99人	H24	150人	<p>会員数は100人前後で推移しているが、これは県文化財保護協会能代支部・二ツ井町文化財保護協会とも活動そのものは活発であるものの、会員の高齢化の進行や若年層の入会減少などが影響していると考えられる。</p>	<p>郷土の歴史や文化財に興味・関心を持つことは、個々人の郷土愛につながり、ひいては地域づくりにもつながっていく。</p> <p>今後は、市民が歴史や文化財に興味・関心を持てるような協会主催講座、協会会員の自己研修などが重要になってくるため、協会活動への支援が必要である。</p>	<p>・協会主催の会員研修等への支援を継続する。</p>
年度	会員数																
H19	121人																
H20	105人																
H21	101人																
H22	98人																
H23	99人																
H24	150人																

(>^) 順調	30	檜山歴史ガイドの会会員数															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>檜山歴史ガイドの会会員数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>会員数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>42人</td></tr> <tr><td>H20</td><td>41人</td></tr> <tr><td>H21</td><td>48人</td></tr> <tr><td>H22</td><td>43人</td></tr> <tr><td>H23</td><td>50人</td></tr> <tr><td>H24</td><td>50人</td></tr> </tbody> </table>	年度	会員数	H19	42人	H20	41人	H21	48人	H22	43人	H23	50人	H24	50人	<p>歴史ガイドの会は、市主催の「歴史ガイド養成講座」の修了者によって構成されている。数年ごとに養成講座を開催することにより、会員数を維持している。</p>	<p>今後も会員数を維持していくため、定期的に養成講座を開催する。</p> <p>また、ガイドの質を確保し、市民のガイドへの興味・関心を高めるためにも、ガイドの会主催の研修会等への協力・支援が必要である。</p>	<p>・ガイドの会への支援は継続するが、会の主体性を尊重する方向で関与していくことを検討したい。</p>
年度	会員数																
H19	42人																
H20	41人																
H21	48人																
H22	43人																
H23	50人																
H24	50人																

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政策	(9)	だれもが気軽に楽しめるスポーツ
めざす姿や状態	①	スポーツを気軽に楽しめ、健康づくりや体力づくり、仲間づくりができること。
-評価の目安- (^~^) (-_-) 横ばい (>_) 不調	②	スポーツに取り組める環境があり、競技力が向上すること。
	③	スポーツイベントなどを通じて、バスケの街として誇りが高まること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^~^) 順調	31	スポーツに親しんでいる市民（週一回以上）の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>スポーツに親しんでいる市民（週一回以上）の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>43.7%</td></tr> <tr><td>H20</td><td>52.1%</td></tr> <tr><td>H21</td><td>46.0%</td></tr> <tr><td>H22</td><td>48.0%</td></tr> <tr><td>H23</td><td>49.6%</td></tr> <tr><td>H24</td><td>50.0%</td></tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	43.7%	H20	52.1%	H21	46.0%	H22	48.0%	H23	49.6%	H24	50.0%	<p>スポーツに親しむ市民の割合が、僅かずつではあるが増加している。</p> <p>要因としては、身体的にあまり負担がかからず比較的容易にできる「ニュースポーツ」の普及事業の継続的な開催や、要望の多いメニューによる様々な「スポーツ教室」等の開催、スポーツイベントの招致による啓発事業が、その効果を上げていると考えられる。</p>	<p>スポーツ教室等に参加する側の立場に立った企画や事業の展開（対象／親子、高齢者、主婦、ジュニア）や、様々なスポーツに携わるリーダーの確保、要望や使用目的を考慮した施設開放が課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より気軽にスポーツを楽しめるよう、教室等におけるアンケート調査を継続し、興味のもてる種目や参加できる時間帯、参加者の年齢層など分析し、内容を常に活性化させる。
年度	割合																	
H19	43.7%																	
H20	52.1%																	
H21	46.0%																	
H22	48.0%																	
H23	49.6%																	
H24	50.0%																	

(^~^) 順調	32	優良競技者・団体表彰数（栄光賞）																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>優良競技者・団体表彰数（栄光賞）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>134人</td></tr> <tr><td>H20</td><td>149人</td></tr> <tr><td>H21</td><td>216人</td></tr> <tr><td>H22</td><td>256人</td></tr> <tr><td>H23</td><td>170人</td></tr> <tr><td>H24</td><td>170人</td></tr> </tbody> </table>		年度	人数	H19	134人	H20	149人	H21	216人	H22	256人	H23	170人	H24	170人	<p>栄光賞の受賞者数が目標値を超えている。</p> <p>要因としては、各競技団体が主体的にジュニアの育成（スポ少）及び競技力向上を図るための教室・講習会等を開催していることや、小学校体育連盟の解散以降、競技力向上に対する学社連携が進められていることなどが考えられる。特に、野球等チーム種目での全県的活躍に目を見はるものがあり、対象受賞者の増加に繋がっている。</p>	<p>競技力の向上と競技者の底辺拡大を図る方策や、競技者としての意識の高揚を促す機会の提供が今後も課題となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各競技団体が主体の競技力に応じた教室開催や事業展開。 ・スポーツ少年団活動によるジュニア競技者の育成。 ・競技者として興味や期待の持てる全国大会レベルの競技会の誘致。
年度	人数																	
H19	134人																	
H20	149人																	
H21	216人																	
H22	256人																	
H23	170人																	
H24	170人																	

(^~^) 順調	33	スポーツ少年団認定指導者数																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>スポーツ少年団認定指導者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>364人</td></tr> <tr><td>H20</td><td>434人</td></tr> <tr><td>H21</td><td>471人</td></tr> <tr><td>H22</td><td>482人</td></tr> <tr><td>H23</td><td>451人</td></tr> <tr><td>H24</td><td>450人</td></tr> </tbody> </table>		年度	人数	H19	364人	H20	434人	H21	471人	H22	482人	H23	451人	H24	450人	<p>認定指導者数が目標値を上回っている。</p> <p>要因としては、小学校体育連盟の解散で、ジュニアのスポーツ活動が社会体育化（スポ少）したことにより、指導者の充実・底上げが図られたことが挙げられる。</p>	<p>今後も、特に新指導者には、スポーツ少年団活動の趣旨を十分理解してもらうとともに、スポーツ少年団本部の意向・指導を理解した上で、過度の期待や勝負へのこだわりにより、子ども達の負担にならないよう親の理解を得ていくことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認定研修への参加をさらに促し、取組を継続。 ・興味のもてる研修会、講演会など教育研修機会の提供を継続。
年度	人数																	
H19	364人																	
H20	434人																	
H21	471人																	
H22	482人																	
H23	451人																	
H24	450人																	

(>_<) 不調	34	バスケの街を他に誇れると思う市民の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>バスケの街を他に誇れると思う市民の割合の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>73.6%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>69.9%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>61.0%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>51.0%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>45.8%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>75.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	73.6%	H20	69.9%	H21	61.0%	H22	51.0%	H23	45.8%	H24	75.0%	<p>市民の「バスケの街」の誇りは、能代工業高校バスケ部の存在が大きい現状もあり、割合が減少したものと考えられる。</p>	<p>能代工業高校バスケ部の存在だけに依存しない「バスケの街」の誇りを持つことが課題と考える。</p>	<p>・「バスケの街づくり」を地域活力につなげるための新たな計画について、関係者や市民とともに策定し、各種取組を実施。</p>
年度	割合																	
H19	73.6%																	
H20	69.9%																	
H21	61.0%																	
H22	51.0%																	
H23	45.8%																	
H24	75.0%																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	1	輝きとぬくもりのまち
政 策	(10)	認め合い支え合う社会づくり
めざす姿や状態	①	性別や国籍などにかかわらず、一人ひとりの個性や能力を発揮できること。
—評価の目安— (^_^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	人権意識や平和意識が浸透すること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^_^) 順調	35	一人ひとりの個性や能力を発揮できる地域になっていると思う市民の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>一人ひとりの個性や能力を発揮できる地域になっていると思う市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>8.5%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>10.4%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>7.7%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>11.0%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>12.8%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>20.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	8.5%	H20	10.4%	H21	7.7%	H22	11.0%	H23	12.8%	H24	20.0%	<p>個性や能力を発揮できる地域になっていると思う市民の割合が、年度によって変動している。</p> <p>男女共同参画推進事業や日本語学習ふれあい交流支援事業、人権擁護活動促進事業などを行っているが、まだ、十分浸透しきれていないと考えられる。</p>	<p>3.11東日本大震災や台風被害などが続く中、防災分野における男女共同参画の推進や人々が互いに認め合い支え合う社会づくりの必要性を広く呼び掛ける。</p>	<p>・男女共同参画都市宣言一周年記念事業の開催による周知・PRを行う。</p>
年度	割合																	
H19	8.5%																	
H20	10.4%																	
H21	7.7%																	
H22	11.0%																	
H23	12.8%																	
H24	20.0%																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	2	元気とうるおいのまち
政策	(1)	環境を核とした活力ある産業創出
めざす姿や状態	①	地域資源の利活用により、産業の創出や関連企業の立地につながること。
-評価の目安- (^-^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	能代港の利活用により、地域に活気が出ること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(-_-) 横ばい	36	資源リサイクル関連新設・増設企業数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
	リサイクルポート能代港にて、循環資源を取り扱う企業の新設があった。	引き続き「秋田県北部エコタウン計画」及び「能代市バイオマスタウン構想」との連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致推進員、秋田県企業立地事務所派遣職員による企業訪問の増加。 研究機関、既設企業等関係機関との連携強化。

(>_<) 不調	37	地域の資源を活用した商品や製品を利用することを心がけている市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
	安全・安心を求める消費者が増えているが、地域の資源を活用した商品や製品の利用が浸透していないと考えられる。 また、活用商品の種類が、少ないため、利用に結びついていないと考えられる。	農産物以外の地元産品の良さについて、情報発信の場が限られており、市民の認知度を高める必要がある。 また、活用商品の種類を増やしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 地元産の良さ、地域資源を活用した商品・製品の良さを生産者や事業者とともにPRに努め、道の駅などでの情報発信を検討。 地域産業資源活用商品化事業費補助金（H23.4施行）による商品化の取り組みの支援。

(>_<) 不調	38	能代港の外港・内港商船入港船舶数（能代火力発電所専用栈橋を除く）	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
	砂利等のバラ積み貨物は増加しているが、木材関係貨物のコンテナ化等により、相対的な現象がみられる。	能代港の利用環境の整備を促進し、能代港を活用する企業の誘致・企業活動の活発化を促進し、ポートセールスを強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 企業折衝の強化 港湾機能整備のほか、貨物の保管施設・荷役設備・航路など、利用環境整備の取組を強化。

(>_<) 不調		39 能代港の貨物量（能代火力発電所専用棧橋を除く）															
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性														
<table border="1"> <caption>指標の推移データ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>貨物量 (t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>483.5</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>465.2</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>354.8</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>317.7</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>333.4</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>547.0</td> </tr> </tbody> </table>		年度	貨物量 (t)	H19	483.5	H20	465.2	H21	354.8	H22	317.7	H23	333.4	H24	547.0	<p>砂利等のバラ積み貨物は増加しているが、木材関係貨物のコンテナ化等により、相対的な現象がみられる。</p>	<p>能代港の利用環境の整備を促進し、能代港を活用する企業の誘致・企業活動の活発化を促進し、ポートセールスを強化する。</p>
年度	貨物量 (t)																
H19	483.5																
H20	465.2																
H21	354.8																
H22	317.7																
H23	333.4																
H24	547.0																
			<p>考えられる取組の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業折衝の強化 ・港湾機能整備のほか、貨物の保管施設・荷役設備・航路など、利用環境整備の取組を強化。 														

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	2	元気とうるおいのまち
政策	(2)	雇用を産み出す企業立地
めざす姿や状態	①	新たな企業立地や起業により、若い人を中心に雇用やチャレンジの機会が増えること。
—評価の目安— (^~^)^ 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	企業誘致に関する情報が十分に企業に伝わり、企業立地につながること。
	③	地域と企業の連携により、雇用創出などの効果を発揮できること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^~^)^ 順調	40	新設・増設企業数（リサイクル関連企業数を含む）															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>新設・増設企業数（リサイクル関連企業数を含む）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	年度	件数	H19	0	H20	2	H21	2	H22	3	H23	6	H24	10	<p>市内企業の移設・増設に加えてリサイクル関連企業の新設があり、増加した。</p>	<p>折衝を行う企業の業種など、絞り込みをおこない、多くの企業へ積極的な働きかけを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致推進員、秋田県企業立地事務所派遣職員による企業訪問の増加。 研究機関、既設企業等関係機関との連携強化。
年度	件数																
H19	0																
H20	2																
H21	2																
H22	3																
H23	6																
H24	10																

(^~^)^ 順調※	41	有効求人倍率															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>有効求人倍率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>倍率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>0.40</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>0.54</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>0.48</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>0.45</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>0.43</td> </tr> </tbody> </table>	年度	倍率	H19	0.40	H20	0.54	H21	0.48	H22	0.35	H23	0.45	H24	0.43	<p>世界的不況の影響を受けた前年と比較し、失業者が減少し、求人が増加したため、有効求人倍率が上がった。</p>	<p>目標の県平均は上回っているものの、大変厳しい状況には変わりなく、より一層の雇用対策が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、企業誘致、地元企業の育成、企業に対する支援を行う。 雇用相談員を配置し、地元企業回りを強化し、現状の把握と求人への掘り起こしをする。
年度	倍率																
H19	0.40																
H20	0.54																
H21	0.48																
H22	0.35																
H23	0.45																
H24	0.43																

(^~^)^ 順調※	42	新規高卒者の就職内定率															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>新規高卒者の就職内定率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>内定率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>95.9%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>96.7%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>99.6%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>99.1%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>97.4%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>99.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	内定率	H19	95.9%	H20	96.7%	H21	99.6%	H22	99.1%	H23	97.4%	H24	99.0%	<p>就職希望者数が前年より増加したが、県外就職が厳しく、県内希望者が増加した。県内求人数は、多少前年を上回ったものの、求職者数の増加に対応できず、また震災の影響で未内定者の就職が進まず、3月末の内定率が下がった。6月末の最終には前年度と同程度の就職率となった。</p>	<p>今年度は、震災や景気の動向から、昨年以上に各企業からの求人の出足が鈍い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 雇用相談員を配置し、地元企業回りを強化し、現状の把握と求人への掘り起こしをする。 デュアルシステム事業によるマッチング。
年度	内定率																
H19	95.9%																
H20	96.7%																
H21	99.6%																
H22	99.1%																
H23	97.4%																
H24	99.0%																

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	2	元気とうるおいのまち
政策	(3)	力強く持続する農業
めざす姿や状態	①	地元産の農産物や加工品の市場評価が高まり、産地として確立すること。
-評価の目安- (^-^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	農業が魅力的な職業として成り立ち、若い人を中心に農業の担い手が増えること。
	③	農業の生産性が高まり、経営の強化につながること。
	④	食の大切さへの理解が深まり、食育が浸透して実践につながること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

-調査不能-	43	野菜作付面積	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>745ha 714ha 740ha</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p><統計データなし></p>		

(-_-) 横ばい	44	担い手農地集積率（個人・集団を含む）	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>46.8% 52.1% 53.2% 58.5% 54.6% 74.3%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>平成19年度及び平成21年度に設立された法人が、基盤整備の完了前に大きく集積を図ったため、平成20～22年度は集積率が向上したが、平成23年度は農業者の高齢化により、農地を手放す面積の方が担い手の集積面積より多くなったため。</p>	<p>新規就農者の確保や農業を職業の一つとして考えていくための意識改革。</p>	<p>国では農業者戸別所得補償制度において、面的に農地を集積した農業者に対する交付金の交付している。県においても集積を図った認定農業者・農業法人に対する奨励金を交付している。市では、農地の利用調整活動をすることで、国・県の支援を受けられるように取り組んでいく。</p>

(^-^) 順調	45	地元産の農産物は安全でおいしいと思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>77.5% 83.4% 82.4% 81.4% 80.0% 87.7%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>平成20年に中国からの輸入品に対する不信感から地元産農産物への好感が高まったが、それがだんだん薄れてきたところに、震災の影響で地元産農産物への関心が高まったため。</p>	<p>地産地消の定着及び地元産農産物の安全・安心が図られるように取り組む。</p>	<p>地産地消及び地元産農作物の安全・安心について、積極的に周知していく。</p>

(^^) 順調	46	学校給食で使用している野菜類のうち秋田県産の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1" data-bbox="161 192 480 533"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>28.8%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>24.9%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>24.3%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>33.0%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>37.6%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>35.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合 (%)	H19	28.8%	H20	24.9%	H21	24.3%	H22	33.0%	H23	37.6%	H24	35.0%	<p>教育委員会と農業振興課、JA等で地場産物活用の意見交換会を実施し、地元農産物の生産時期等の情報を各調理場に提供し、県内産の野菜類の使用率を上げてきた。</p>	<p>今後も引き続き、地産地消を推進していく。</p>	<p>・順調に推移しているので取組を維持。</p>
年度	割合 (%)																	
H19	28.8%																	
H20	24.9%																	
H21	24.3%																	
H22	33.0%																	
H23	37.6%																	
H24	35.0%																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	2	元気とうるおいのまち
政策	(4)	山・川を生かす林業・木材産業・水産業
めざす姿や状態	①	秋田スギの利用が進み、林業や木材産業の経営強化につながる事。
一評価の目安 (^-) 順調 (-_) 横ばい (>_) 不調	②	秋田スギの良さを伝え、木のまちとして、街なかに木のぬくもりを感じられること。
	③	産学官が連携して調査や研究が進み、林業や木材産業の育成につながる事。
	④	森林の手入れや保全により、水の貯留や浄化などの機能を維持でき、水産資源の持続的な利用につながる事。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(>_) 不調	47	木材製品出荷額	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>22,782 百万円 20,297 百万円 18,523 百万円 15,485 百万円 23,000 百万円</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>出荷額が減少している主要因としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新築住宅着工数が減少したことによる需要の減少。 ・経済活動の衰退による需要の減少及び事業所の減少。 ・製品価格が低迷 ・天然秋田杉原木等の搬出量が大きく落ち込み、銘木製品出荷量が落ち込む。 ・為替の大幅な変動による需要の低迷 <p>などが考えられる。</p>	<p>類似製品生産地との差別化を図り、付加価値のある製品の開発を進めていくことが求められており、木材産業を技術立地型へ転換していくことが必要である。</p> <p>成熟期を迎える秋田スギの有効活用の手立ての模索（秋田スギ厚板構法等の研究開発）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木材の使用範囲を拡大できる設計・構法の確立。 ・地産地消を促進する補助制度の活用。 ・共同研究成果の具現化・製品化。 ・需要や要望に対する製品管理の徹底。

(-_) 横ばい	48	木のぬくもりや木のまちとしての雰囲気があると思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>35.9% 35.9% 36.6% 35.4% 55.0%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>木の雰囲気を感じる市民の割合が増えない要因としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街路樹と一体化した木造外壁などが、防災上の耐火基準などにより制限されることから、景観の中に木を感じられるエリアなどが少ない。 ・住宅への秋田スギ材使用に対し補助を行ってきているが、内装材利用が多く、人目に付く部分の使用が限られていること ・中心部の公共建築物では、内部使用にとどまることが多いこと <p>などが考えられる。</p>	<p>何気ない場所への木の使用を促し、木材の使用が感じられる機会や身近に感じられる環境を増やしていく。</p> <p>建物等の構造物への利用だけでなく、樹木の植栽など環境や生活に溶け込んだ樹木の利用も考えられる。</p> <p>温暖化や環境保全の面から木の有効性をPRし関心を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外観・外向に木や街路樹を使った町並みの形成。 ・標識・看板・掲示板等、人目に触れる木製品の使用を促進。 ・木の効用・有効性のPRや、構造等による木の知識の啓蒙。 ・木のまちのモデル地域を制定し支援する（使用方法と維持継続方法の支援）。

(>_) 不調	49	木の学校利用者数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>10,975 人 9,866 人 9,612 人 9,317 人 7,433 人 13,000 人</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>利用者の減少傾向としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材販売量や小規模木材業者の減少により、限られた業者の利用に限定されていることや、機器の老朽化等による修理のため稼働率が低下していること。 ・利用者の高齢化や交通の便等により、工作室の利用者が減少傾向にあること。 ・学校の利用が減少したこと。 <p>などが上げられる。</p>	<p>施設・設備の整備・充実による稼働率の向上。</p> <p>木工工作や木の製品に興味を持つ人が、訪れやすい交通手段の確保などが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加しなくなる様々な形態の木工作体験メニューの検討 ・地域の公民館事業や小学校等の授業での利用の働きかけ。 ・木工技術者の確保・工作設備・機械の更新・保守 ・木工教室の製作作品の充実並び、開催日の拡充。 ・地域局市民ホール、市民プラザ、旧金勇等を活用した作品展示によるPR ・インターネット・広報等の活用によるPR

(^_^) 順調	50	共同研究等（委託を含む）で実際に商品化できた件数																							
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策																						
<table border="1"> <caption>共同研究等（委託を含む）で実際に商品化できた件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	年度	件数	累計	H19	0	0	H20	0	0	H21	0	0	H22	1	1	H23	1	2	H24	2	4	<p>木高研では、各企業との連携により、地域材を利用した構造・構法やバイオマス利用などの研究開発を行っており、その成果を毎年公開・発表してきているが、製品として活用できるものは限られている。</p> <p>二ツ井小学校体育館は耐火性能試験法の活用設計・施工によりH21年度に完成を見た。また「木ダボ接合ラーメン構法」は構造評定取得に向けて資料・実地データの取りまとめ、ハイブリット木橋・木製ダムについても、実用化に向けて実証物件の設計・施工を行う機会を得ている。</p>	<p>研究開発は、これまでの基礎・応用段階から、実証試験及び関係機関からの認定・評定等の取得段階にあり、行政・建築業界等へ実用・実証に向け、その有効性を示す機会を模索する段階にきている。</p> <p>新しい構造・構法については、生産の合理化・低コスト化・一般化により普及を図る。</p> <p>また、地域材流通システムの構築や、環境面にも配慮したCO2の削減又は、排出権取引等についても、アピールしていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリット木質土木構造物（ハイブリット木橋）をはじめとする実用可能技術を行政・産業界へPRし、事業化等に向けた動きがみられる。 ・木ダボ接合ラーメン構法設計・施工マニュアル、耐火性能検証法による設計マニュアルの普及活動による木造建築部への応用。 ・開発技術を利用する事業や各関連業界への働きかけ。 	
年度	件数	累計																							
H19	0	0																							
H20	0	0																							
H21	0	0																							
H22	1	1																							
H23	1	2																							
H24	2	4																							

(>_<) 不調	51	松くい虫被害量																
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策															
<table border="1"> <caption>松くい虫被害量</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>被害量 (m3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>970</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>849</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>1,550</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>1,536</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>1,646</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>750</td> </tr> </tbody> </table>	年度	被害量 (m3)	H19	970	H20	849	H21	1,550	H22	1,536	H23	1,646	H24	750	<p>海岸部を中心とした高度公益機能森林については、国・県・市で伐倒駆除及び薬剤散布を行ってきているが、その他の松林については、被害木をほぼ全量適期に駆除できていないことから、被害量が増加していると考えられる。</p>	<p>海岸部については大臣命令により関係機関と連携して引き続き伐倒及び薬剤散布を実施する。内陸部の主要な松林については、地区保全森林となっており補助事業で伐倒駆除等を行っているが十分ではなく、また、主要道路沿線等の補助対象外の松林にも被害が広がっている。</p>	<p>内陸部の地区保全森林についても薬剤散布を取り入れた防除対策を検討するとともに、地区保全森林以外の枯松については、秋田県水と緑の森づくり税の活用により伐倒処理する。</p>	
年度	被害量 (m3)																	
H19	970																	
H20	849																	
H21	1,550																	
H22	1,536																	
H23	1,646																	
H24	750																	

(>_<) 不調	52	漁獲高（海）																
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策															
<table border="1"> <caption>漁獲高（海）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>漁獲高 (t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>159</td> </tr> </tbody> </table>	年度	漁獲高 (t)	H19	159	H20	118	H21	59	H22	106	H23	74	H24	159	<p>毎年、天候によって水温が変化するため。また、魚道も変わるため、その年によって漁獲高に変動がある。</p>	<p>漁業者数は横ばいだが、今後は減少していくとみられる。</p> <p>また、砕氷施設の規模が小さいため、外来船の水揚げを受入れできないことが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸漁業のため、漁礁の設置や栽培漁業の実施。 	
年度	漁獲高 (t)																	
H19	159																	
H20	118																	
H21	59																	
H22	106																	
H23	74																	
H24	159																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	2	元気とうるおいのまち
政策	(5)	まちのにぎわいをつくり出す商業
めざす姿や状態	①	商店街に人が集まり、交流やにぎわいが生まれ、街に活気があること。
-評価の目安- (^-) 順調 (-_) 横ばい (>_) 不調	②	商店街や個店に特色があり、空き店舗の活用が進むこと。
	③	商店街と大型店の連携があり、市外に出なくても買い物ができること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(-_) 横ばい	53	地元商店街や近所の商店を利用することを心がけている市民の割合															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>指標の推移 (53)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>45.7%</td></tr> <tr><td>H20</td><td>47.4%</td></tr> <tr><td>H21</td><td>44.1%</td></tr> <tr><td>H22</td><td>46.2%</td></tr> <tr><td>H23</td><td>49.1%</td></tr> <tr><td>H24</td><td>58.0%</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合 (%)	H19	45.7%	H20	47.4%	H21	44.1%	H22	46.2%	H23	49.1%	H24	58.0%	<p>各商店街で「まち灯り」や「100円商店街」など積極的にイベントを実施しており、開催時には来街者が増加し、また、能代でらっと情報・のしる街なか瓦版等インターネット利用による商店街イベントや個店の紹介等により、一定の効果を上げていると思われる。</p>	<p>商店街等がイベント開催などで新鮮な話題を提供しているか、また、イベントを各個店のPRにつなげられるかが課題である。 また、行政としては情報提供やPRの強化を図っていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント時の各個店の協力・参画、PRの強化。 ・各個店の魅力を高めるためのアドバイザー制度活用の促進。
年度	割合 (%)																
H19	45.7%																
H20	47.4%																
H21	44.1%																
H22	46.2%																
H23	49.1%																
H24	58.0%																

(>_) 不調	54	商店街の空き店舗率															
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>指標の推移 (54)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>18.5%</td></tr> <tr><td>H20</td><td>17.5%</td></tr> <tr><td>H21</td><td>21.5%</td></tr> <tr><td>H22</td><td>22.4%</td></tr> <tr><td>H23</td><td>23.6%</td></tr> <tr><td>H24</td><td>18.5%</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合 (%)	H19	18.5%	H20	17.5%	H21	21.5%	H22	22.4%	H23	23.6%	H24	18.5%	<p>増加傾向が続いている。 人口減少と消費行動の多様化による消費者の商店街離れが主な要因と考えられる。 また、既存建築物の老朽化が進み、新規出店者が入店を希望するような建物の状況がない場合が多い。</p>	<p>空き店舗の流動化を促進していくため、各種支援事業を行う関係機関との連携を強化する。</p>	<p>マッチング事業や人材育成事業を行う関係機関と連携することで空き店舗の流動化を促進する。</p>
年度	割合 (%)																
H19	18.5%																
H20	17.5%																
H21	21.5%																
H22	22.4%																
H23	23.6%																
H24	18.5%																

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	2	元気とうるおいのまち
政策	(6)	豊かな自然とその恵みを活かす観光
めざす姿や状態	①	観光による交流やにぎわいが生まれ、地域に活気があること。
-評価の目安- (^~^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	豊かな自然や特色ある郷土料理など、地域資源の魅力により、来訪者の満足度が高まること。
	③	観光やイベントの宣伝ができていて、地域のイメージが高まること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^~^) 順調	55	観光客入込客数	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>観光客入込客数は観光地点別入込客調査の数値を指標としている。H22年は行事による観光客の入込客数が天候等に恵まれ前年比で大幅に増加している。具体的には能代港まつり花火大会、役七夕等が増えている。</p>	<p>市にとって行事の観光客入込客数は大きなシェアを占める。また、スポーツ施設における入込客も大きい。今後、一層のPR活動により、誘客を図る。</p>	<p>HP・ブログ・ツイッター等での観光の情報発信を進める一方、観光キャラバンや観光ポスター等、総合的なPRによって誘客につなげたい。</p>

(-_-) 横ばい	56	豊かな自然や特色ある郷土料理など、他に誇れる観光資源があると思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>能代市の豊かな自然や特色ある郷土料理を誇れる観光資源であるとの意識は半数弱にとどまっている。これらは市民にとって身近なものとして捉えられており、観光資源としての意識に結びついていない。</p>	<p>身近なものを観光資源として意識してもらうため、身近な自然や郷土料理についての情報提供を工夫する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内まち歩きツアーやなべっこ遠足のような市民も参加できるイベントの実施。 ・HPやブログ、広報の活用等により、市民も能代の観光を意識することができるような働きかけを行う。 ・市内イベント時に能代の食をアピールする機会を増やす。 ・市民が地域を再認識できるよう、能代FCの活動を支援する。

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	2	元気とうるおいのまち
政策	(7)	自然と共生し地域で支える環境保全
めざす姿や状態	①	自然と親しみ、自然を通して人がふれあい、地域の財産として保全と活用ができること。
-評価の目安- (^~) 順調 (-_) 横ばい (>_) 不調	②	環境問題に対して適正に対処し、良好な環境を保全できること。
	③	身近な環境や自然、エネルギーに関する理解が深まり、地域ぐるみの環境活動につながること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(-_) 横ばい	57	米代川やきみまち阪、風の松原などの豊かな自然は、他に誇れると思う市民の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>指標の推移 (57)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>71.7%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>72.7%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>67.7%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>67.4%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>74.0%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>81.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合 (%)	H19	71.7%	H20	72.7%	H21	67.7%	H22	67.4%	H23	74.0%	H24	81.0%	<p>環境学習講座において、市の優れた自然と触れ合う機会を設け、自然環境保全意識の高揚を図った事が、市民意識に結びついてきていると考えられる。</p>	<p>今後も引き続き、貴重な自然環境の保全に努めながら、より多くの市民に豊かな自然を知ってもらうよう努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全意識の高揚を図るため、環境大学やこども環境探偵団活動を継続。
年度	割合 (%)																	
H19	71.7%																	
H20	72.7%																	
H21	67.7%																	
H22	67.4%																	
H23	74.0%																	
H24	81.0%																	

(-_) 横ばい	58	環境自治体スタンダード (LAS-E) の合格ステージ																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>指標の推移 (58)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>合格数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		年度	合格数	H19	1	H20	1	H21	1	H22	1	H23	1	H24	2	<p>平成22年12月のLAS-E判定委員会で、第1ステージのエコアクション部門、エコマネジメント部門、エコガバナンス部門の3部門について、適切に維持されていると判断された。</p>	<p>第2ステージへのステップアップを検討しなければならないが、現在、LAS-Eの規格の見直しが行われており、今年中に改訂される予定であるため、新規格に沿った検討を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境監査及びLAS-E判定委員会で指摘のあった問題点について改善を図る。 ・第2ステージへのステップアップに向けた調査等の実施。
年度	合格数																	
H19	1																	
H20	1																	
H21	1																	
H22	1																	
H23	1																	
H24	2																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	2	元気とうるおいのまち
政策	(8)	資源を大切にし社会を持続できる衛生環境
めざす姿や状態	①	普段の生活からごみの減量化や資源化が進むこと。
—評価の目安— (^~^)^ 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	環境に対する意識が高まり、いつもまちがきれいであること。
	③	生活上の衛生が保たれること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^~^)^ 順調	59	1人1日あたりごみ排出量		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		平成20年度から始まった「容器包装プラスチック」の分別が定着したものと考えられる。	平成21年度実績から目標値を毎年度達成している。更なるごみ減量化を図るため、生ごみの水切り徹底等を周知していく。	・順調に推移しているので、取組を維持。

(-_-) 横ばい	60	限りある資源を大切にするため、紙類などを資源ごみに分別することを心がけている市民の割合		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		実績値は横ばい傾向だが、設定した目標値と差が付き始めている。ごみ分別は定着しているも、リサイクルへの必要性について認識がまだ徹底されていないためと推測される。	ごみの出し方や分別方法・3R（リデュース・リユース・リサイクル）は、全市民に幅広く認識してもらう必要がある。	・広報紙等でリサイクルへの取組を呼び掛ける。 また、ごみ分別出前講座（対象：自治会、小中学校の総合学習）の回数を少しでも増やし、資源ごみの分別への理解を深めてもらえるよう努める。

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	3	安全と安心のまち
政策	(1)	安全な暮らしを守る防災・防犯体制
めざす姿や状態	①	普段から消防や防災、防犯の意識を持ち、犯罪やトラブルがなく、地域が安全で暮らしやすいこと。
—評価の目安— (^~^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	安全に通行できる環境があり、交通安全の意識が浸透し、交通事故を防げること。
	③	子どもや高齢者など弱い立場の人の被害を防げること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^~^) 順調	61	災害などもしもの場合に普段から備えることを心がけている市民の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>指標の推移 (災害などもしもの場合に普段から備えることを心がけている市民の割合)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>25.5%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>30.0%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>26.5%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>31.6%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>30.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	25.5%	H20	30.0%	H21	26.5%	H22	31.6%	H23	50.0%	H24	30.0%	<p>災害などに備える市民の割合が目標値を大きく上回っている。これは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災という未曾有の大災害を経験したことにより、防災意識が大きく向上したものと考えられる。</p>	<p>目標値を大きく上回っている状況であるが、今後とも継続的に、津波ハザードマップの作成、出前講座、広報等での啓発などにより、防災意識の向上に取り組む。</p>	<p>防災訓練への参加や自治会等における防災活動の取り組みを促進する。</p>
年度	割合																	
H19	25.5%																	
H20	30.0%																	
H21	26.5%																	
H22	31.6%																	
H23	50.0%																	
H24	30.0%																	

(^~^) 順調	62	防災訓練参加者数														
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策												
<table border="1"> <caption>指標の推移 (防災訓練参加者数)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>6,269人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>7,818人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>8,282人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>7,604人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>7,100人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	参加者数	H19	6,269人	H20	7,818人	H21	8,282人	H22	7,604人	H23	7,100人	<p>防災訓練の規模・内容等により、各年度において参加人数の増減がある。今年度の防災訓練参加者数については、10月に取りまとめを行う予定であるが、大規模な県の総合防災訓練が能代市で開催されたことから、例年より参加者数は大幅に増加する見込みである。</p>	<p>より多くの住民が参加できる訓練方法を検討する必要がある。また、自主防火組織が独自の訓練を実施できるような環境づくりに努める。</p>	<p>自治会、町内会、自主防火組織が、自主的に防災訓練を実施できるよう効果的な支援方法を検討し、取り組みを促進する。</p>
年度	参加者数															
H19	6,269人															
H20	7,818人															
H21	8,282人															
H22	7,604人															
H23	7,100人															

(>_<) 不調	63	消防団員の定員の充足率																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>指標の推移 (消防団員の定員の充足率)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>充足率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>86.8%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>83.0%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>82.8%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>81.9%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>81.6%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>88.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	充足率	H19	86.8%	H20	83.0%	H21	82.8%	H22	81.9%	H23	81.6%	H24	88.0%	<p>最も大きな要因は、少子高齢化や過疎化による人口減少と思われる。今後、ますます高齢化が進み、消防団員の確保は困難になるものと考えられる。</p>	<p>消防団員の確保と活動しやすい環境づくり事業を推進する。 人口増加が見込めない状況であるため、活動内容を限定し、資格要件を緩和した団員制度を導入し、団員確保に努める。消防団に対するイメージの向上も必要であると考えられる。</p>	<p>平成23年度において、これまでの基本団員のほかに機能別団員制度を導入するための条例改正を行った。この制度を有効に活用して、団員確保に取り組む。</p>
年度	充足率																	
H19	86.8%																	
H20	83.0%																	
H21	82.8%																	
H22	81.9%																	
H23	81.6%																	
H24	88.0%																	

(-_-) 横ばい	64	がけ地近接等の危険住宅の戸数																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>危険住宅の戸数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>戸数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>62</td></tr> <tr><td>H20</td><td>62</td></tr> <tr><td>H21</td><td>62</td></tr> <tr><td>H22</td><td>62</td></tr> <tr><td>H23</td><td>62</td></tr> <tr><td>H24</td><td>61</td></tr> </tbody> </table>		年度	戸数	H19	62	H20	62	H21	62	H22	62	H23	62	H24	61	<p>対象となる住宅で生活をしている世帯では、高齢化・核家族化による家の後継の事や、補助対象が解体費と建設（購入）の際の借入金の利子補給であり、住宅建替え等の費用負担は本人負担となることなどにより、建替え等に踏み切れない状況と考えられ、横ばいとなっている。</p>	<p>対象世帯自身が判断することではあるが、市として、がけ地近接危険住宅移転事業の内容を周知するなど、啓発に努め事業推進を図っていく。</p>	<p>・啓発のため毎年継続して事業内容を対象世帯に周知する。</p>
年度	戸数																	
H19	62																	
H20	62																	
H21	62																	
H22	62																	
H23	62																	
H24	61																	

(^-^)^ 順調	65	能代警察署管内の交通事故死者数																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>交通事故死者数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>5</td></tr> <tr><td>H20</td><td>3</td></tr> <tr><td>H21</td><td>4</td></tr> <tr><td>H22</td><td>3</td></tr> <tr><td>H23</td><td>3</td></tr> <tr><td>H24</td><td>4</td></tr> </tbody> </table>		年度	人数	H19	5	H20	3	H21	4	H22	3	H23	3	H24	4	<p>能代警察署管内の交通事故の発生件数は年々減少傾向にある。 その中でも、高齢化に伴い交通事故による死亡者の半数以上を高齢者が占めている。</p>	<p>今後も引き続き、関係機関との連携を図りながら、交通事故・交通事故死亡者をなくすための取組を進めていく必要がある。 特に、高齢運転者による交通事故を抑制するための取組を進めていく。</p>	<p>(順調に推移しているので取組を維持。)</p>
年度	人数																	
H19	5																	
H20	3																	
H21	4																	
H22	3																	
H23	3																	
H24	4																	

(^-^)^ 順調	66	能代警察署管内の犯罪件数																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>犯罪件数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>610</td></tr> <tr><td>H20</td><td>602</td></tr> <tr><td>H21</td><td>541</td></tr> <tr><td>H22</td><td>519</td></tr> <tr><td>H23</td><td>345</td></tr> <tr><td>H24</td><td>550</td></tr> </tbody> </table>		年度	件数	H19	610	H20	602	H21	541	H22	519	H23	345	H24	550	<p>近年、能代警察署管内の犯罪件数は減少傾向にあるものの、高齢者をねらった振り込め詐欺や悪質リフォーム、インターネットなどを利用した悪質商法、架空請求などにも注意が必要となっている。</p>	<p>今後も引き続き、地域住民や警察署、防犯協会、学校などの関係機関と一体となった防犯体制により、地域の安全を守っていく必要がある。</p>	<p>(順調に推移しているので取組を維持。)</p>
年度	件数																	
H19	610																	
H20	602																	
H21	541																	
H22	519																	
H23	345																	
H24	550																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	3	安全と安心のまち
政策	(2)	機能的で利用しやすい道路・交通ネットワーク
めざす姿や状態	①	生活道路や歩道、排水路などの生活基盤が整っていて、安全で快適に暮らせること。
—評価の目安— (^~^)^ 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	除排雪などに地域住民やボランティアなどの協力態勢が整っていて、季節を問わず安全に通行できること。
	③	路線バスなどの交通手段が整っていて、快適に移動できること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^~^)^ 順調	67	道路の整備延長（改良率）		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>改良率増の要因としては、現道を改良したもののほか、県道からの移管や、ほ場整備・開発行為等により整備された道路の帰属によるものが多くを占めている。</p> <p>改良延長 総延長 H22: 420,115m / 739,984m H23: 420,239m / 739,293m</p> <p>H22→H23 増分 124m うち移管・帰属によるもの 164m</p>	<p>現道を拡幅改良したり、新規に道路を整備するには、用地買収や移転補償、工事費等の多大な費用を要するため、費用対効果を見極めながら検討を進めていく必要がある。</p>	<p>・費用対効果を考えて、改良の必要箇所を抽出し、少しでも有利になる事業手法を検討。</p>

(^~^)^ 順調	68	道路の整備延長（舗装率）		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>舗装率増の要因としては、新規に舗装したもののほか、県道からの移管や、ほ場整備・開発行為等により整備された道路の帰属によるものが多くを占めている。</p> <p>舗装延長 総延長 H22: 506,213m / 739,984m H23: 506,156m / 739,293m</p> <p>H22→H23 減分 57m うち市道認定廃止によるもの 172m</p>	<p>市民生活に密接に関連し、かつある程度の戸数が接している市道については、すでに大半が舗装済みである。舗装整備にあたっては、安全性・快適性等など効果が期待できる箇所を選定する必要がある。また、舗装することで、道路冠水や住宅冠水の危険性が増すため、排水施設の状況も踏まえて検討する必要がある。</p>	<p>・自治会・町内会や市民からの要望等を把握した上で、舗装の必要性・安全性を十分検討。</p>

(^~^)^ 順調	69	除排雪や清掃活動など、近所や自治会・町内会などで協力しあう体制が整っていると思う市民の割合		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>平成18年豪雪を契機として、除排雪や清掃活動などで、地域住民やボランティアなどの協力体制が整いつつある。特に除排雪に関しては、地域の排雪作業に機械の貸出しも行って協働で取り組んでいるほか、広報紙での周知や自治会・町内会への説明会開催など協力への呼びかけにより、徐々にではあるが意識の浸透につながっているのではないかと考えられる。</p>	<p>市だけで対応可能な作業は限られており、協働で活動に取り組むことの必要性を周知していくとともに、協働の体制を確立していく必要がある。</p>	<p>・広報紙やホームページ等での啓発。 ・自治会・町内会や事業所等への継続的な働きかけ。</p>

(>_<) 不調		70	巡回バスの1便平均利用者数																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因		目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>巡回バスの1便平均利用者数推移表</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>平均利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>14.1人</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>14.5人</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>13.5人</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>12.5人</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>12.6人</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>16人</td> </tr> </tbody> </table>		年度	平均利用者数	H19	14.1人	H20	14.5人	H21	13.5人	H22	12.5人	H23	12.6人	H24	16人	<p>2月まで利用者が順調に伸びていたが、3月11日の震災の影響で、間引き運行を行い、3月の利用者が減少した。合計で前年をわずかに上回る結果となった。</p>		<p>新たな利用者の増に向けた施策、PRが必要。</p>	<p>地域住民、利用者の要望を受け、10月から運行経路を変更し、利用者の増加を図る。 また、バスの乗車無料日の設定や広報等でPRに努める。</p>
年度	平均利用者数																		
H19	14.1人																		
H20	14.5人																		
H21	13.5人																		
H22	12.5人																		
H23	12.6人																		
H24	16人																		

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	3	安全と安心のまち
政策	(3)	効果的で調和のとれた土地利用
めざす姿や状態	①	それぞれの地域が持つ資源や特性、整備された生活基盤が活用され、この地域に合った良好な都市形成が進むこと。
—評価の目安— (^_^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	定住人口や交流人口の確保により、中心市街地に活気があること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(>_<) 不調	71	中心市街地活性化重点区域の空き店舗率																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>中心市街地活性化重点区域の空き店舗率推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>空き店舗率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>20.5%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>17.0%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>21.6%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>22.5%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>25.1%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>20.5%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	空き店舗率 (%)	H19	20.5%	H20	17.0%	H21	21.6%	H22	22.5%	H23	25.1%	H24	20.5%	<p>増加傾向が続いている。人口減少と消費行動の多様化による消費者の商店街離れが主な要因と考えられる。</p> <p>また、既存建築物の老朽化が進み、新規出店者が入店を希望するような建物の状況にない場合が多い。</p>	<p>空き店舗の流動化を促進していくため、各種支援事業を行う関係機関との連携を強化する。</p>	<p>マッチング事業や人材育成事業を行う関係機関と連携することで空き店舗の流動化を促進する。</p>
年度	空き店舗率 (%)																	
H19	20.5%																	
H20	17.0%																	
H21	21.6%																	
H22	22.5%																	
H23	25.1%																	
H24	20.5%																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	3	安全と安心のまち
政策	(4)	快適で暮らしやすい住環境
めざす姿や状態	①	飲用水の確保や生活排水の処理などにより、衛生的で快適な生活環境になること。
-評価の目安- (^-^)- 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	情報通信技術を利用できる環境になること。
	③	安らぎのある憩いの場として、公園や広場などを安心して利用できること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^-^)- 順調	72	水道普及率	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>上水道給水区域の拡張で未普及地域の解消に努めたが、給水人口の減少により、普及率は減少傾向にあった。その後、二ツ井荷上場地区の水道整備の事業化によって増加したものである。</p>	<p>今後は、水道等整備事業で位置づけている地区の整備、簡易水道や小規模水道等の経営統合も含めた事業等、水道事業の経営状況を考慮しながら、効率的な整備を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能代市水道等整備計画に基づき整備を推進。

(-_-) 横ばい	73	汚水処理人口普及率	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>普及率の一時的な減少は、公共下水道整備済み人口の数値の整理によるもので、実質的な整備区域は少しずつではあるが拡大している。</p> <p>普及率の伸びが目標に対して緩やかな要因は、公共下水道事業では、国の交付金が計画どおりに確保できないこと、浄化槽整備事業では設置基数が横ばい傾向にあることが考えられる。</p>	<p>市の財政運営に大きな影響が出ないような事業計画とした上で、限られた財源の中でどう普及率を高めていくかが課題となっている。</p> <p>公共下水道事業については、H22より認可拡大区域の整備を本格的に実施しており、国の交付金を確保した上で整備を進める。</p> <p>浄化槽整備事業については、H24から市設置型整備区域を拡大するとともに、個人設置型区域への市単独上乘せ補助を継続し、普及促進に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道事業の計画に沿った整備。 ・市設置型浄化槽整備区域の一層の普及促進。 ・個人設置型浄化槽整備に係る市単独上乘せ補助の継続。

(^-^)- 順調	74	飲用水の確保や生活排水の処理など、衛生的な生活環境は維持されていると思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>上水道給水区域や公共下水道整備区域が少しずつでも拡大していることで指標が向上しているものと考えられる。</p> <p>なお、指標が一時的に落ち込んだのは、平成20年7月の浄水場一元化に伴う濁り水の発生が影響したものと考えられる。</p>	<p>上水道に関しては、濁り水の発生で浄水場の一元化には至らなかった経緯があるが、臥竜山浄水場の老朽化が進んでいるため、濁り水を極力発生させないように一元化を進める必要がある。</p> <p>また、下水道に関しては、市の財政運営に大きな影響が出ないような事業計画とした上で、限られた財源の中でどう普及率を高めていくかが課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能代市水道等整備計画に基づき整備を推進。 ・上水道においては浄水場の一元化をスムーズに進めるための研究・検討。 ・公共下水道事業の計画的な整備。 ・浄化槽整備事業の補助制度の市単独上乘せ補助の継続。

(^^) 順調		75	ブロードバンド世帯カバー率																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因		目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>ブロードバンド世帯カバー率推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>カバー率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>98.9%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	カバー率	H19	98.9%	H20	100%	H21	100%	H22	100%	H23	100%	H24	100%	<p>世帯数が少なく通信事業者が整備できない地区については、県・市・通信事業者が応分負担しながら整備促進を図り、平成20年度末で目標のブロードバンド世帯カバー率100%を達成した。</p>		<p>全世帯において高速インターネット環境が整備されたため、これを維持しつつ、より快適な通信環境整備のため通信事業者の動向に注視していく。</p>	<p>・より快適な超高速ブロードバンドとなるよう、通信事業者の整備を注視するとともに、整備促進の働きかけを検討する。</p>
年度	カバー率																		
H19	98.9%																		
H20	100%																		
H21	100%																		
H22	100%																		
H23	100%																		
H24	100%																		

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	3	安全と安心のまち
政策	(5)	安心でき健康を保てる医療体制
めざす姿や状態	①	身近にかかりつけ医がいて、気軽に相談でき、必要なときに必要なサービスや高度な医療を受けられること。
—評価の目安— (^~^)^ 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	身近にできる救命技能や献血などが、地域医療を支えること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(>_<) 不調	76	身近なかかりつけ医を持っている市民の割合																
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策															
<table border="1"> <caption>身近なかかりつけ医を持っている市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>66.2%</td></tr> <tr><td>H20</td><td>66.7%</td></tr> <tr><td>H21</td><td>65.3%</td></tr> <tr><td>H22</td><td>59.8%</td></tr> <tr><td>H23</td><td>59.4%</td></tr> <tr><td>H24</td><td>75.0%</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合	H19	66.2%	H20	66.7%	H21	65.3%	H22	59.8%	H23	59.4%	H24	75.0%	<p>一次医療機関・二次医療機関の受診に関する棲み分けが明確になっていない現状の医療体制や、治療法選択のセカンド・オピニオンなど、患者自らが専門の医療機関及び医師を選択して受診する傾向になってきていることも一因と考えられる。</p>	<p>医師会や近隣自治体とも協力しながら、医師確保や医療体制整備について国等に要望していくとともに、症状によつての医療機関選択等に関する知識を、健康教室等の機会をとらえての普及啓発していく。</p>	<p>・啓発活動を継続。</p>	
年度	割合																	
H19	66.2%																	
H20	66.7%																	
H21	65.3%																	
H22	59.8%																	
H23	59.4%																	
H24	75.0%																	

(-_-) 横ばい	77	身近なかかりつけ薬局を持っている市民の割合																
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策															
<table border="1"> <caption>身近なかかりつけ薬局を持っている市民の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>51.0%</td></tr> <tr><td>H20</td><td>52.3%</td></tr> <tr><td>H21</td><td>49.0%</td></tr> <tr><td>H22</td><td>48.0%</td></tr> <tr><td>H23</td><td>49.8%</td></tr> <tr><td>H24</td><td>65.0%</td></tr> </tbody> </table>	年度	割合	H19	51.0%	H20	52.3%	H21	49.0%	H22	48.0%	H23	49.8%	H24	65.0%	<p>薬局で発行しているお薬手帳の普及や、地域等での啓発活動の効果が、徐々に現れてきていると思われるが、一方で、受診する医療機関が変わることにより、かかりつけ薬局が遠くなるなどの利便性から定まっていない人もいるのではないかと考えられる。</p>	<p>今後も健康教室等の機会をとらえて、啓発活動を継続していく。</p>	<p>・啓発活動を継続。</p>	
年度	割合																	
H19	51.0%																	
H20	52.3%																	
H21	49.0%																	
H22	48.0%																	
H23	49.8%																	
H24	65.0%																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	3	安全と安心のまち
政策	(6)	不安のない生活を支える社会保障制度
めざす姿や状態	①	社会保障制度が整っていて、安心して日常生活を送れること。
—評価の目安— (^_^) 順調 (-_-) 横ばい (>_<) 不調	②	介護などが必要になったときに、必要なサービスや援助を受けられること。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^_^) 順調	78	要介護2～5に対する介護三施設等利用者の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>要介護2～5に対する介護三施設等利用者の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>56.0%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>55.1%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>49.8%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>46.3%</td> </tr> <tr> <td>H24 (目標)</td> <td>60.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	58.3%	H20	56.0%	H21	55.1%	H22	49.8%	H23	46.3%	H24 (目標)	60.0%	<p>要介護2～5の認定者数の増加に伴い、介護三施設等利用者の占める割合は下降している。施設整備が行われない限り、この割合は減少する傾向にある。</p>	<p>特に後期高齢者人口の急増で要介護者が増えており、居住系サービスのニーズは高い。国の示す標準は、平成26年度で37%以下となっていて乖離があるが、地域事情を考慮して目標値を設定したため、高齢者人口が増加する中では、一定の施設整備は必要と考えられる。</p>	<p>(順調に推移しているので取組を維持。) ※H22.6.18「規制・制度改革に係る対処方針」において参酌標準の撤廃が閣議決定された。これにより、第5期介護保険事業計画では、各市町村がそれぞれの地域の実情に応じ、施設や居住系サービスの整備目標を策定できる方針が示された。</p>
年度	割合																	
H19	58.3%																	
H20	56.0%																	
H21	55.1%																	
H22	49.8%																	
H23	46.3%																	
H24 (目標)	60.0%																	

(^_^) 順調	79	介護三施設と地域密着型特養の利用者に対する要介護4・5の割合																
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策														
<table border="1"> <caption>介護三施設と地域密着型特養の利用者に対する要介護4・5の割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H19</td> <td>63.6%</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>66.7%</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>67.4%</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>67.2%</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>67.1%</td> </tr> <tr> <td>H24 (目標)</td> <td>65.0%</td> </tr> </tbody> </table>		年度	割合	H19	63.6%	H20	66.7%	H21	67.4%	H22	67.2%	H23	67.1%	H24 (目標)	65.0%	<p>介護老人福祉施設は75%、介護老人保健施設は49%、介護療養型医療施設は96%で、平均67.2%となっており、目標値をクリアしている。 なお、国の示す標準は、平成26年度で70%以上となっている。</p>	<p>今後も順調に推移するものと考えられる。 ※23年度末までに介護療養型医療施設が廃止の予定であったが、29年度末まで延長となった。</p>	<p>(順調に推移しているので取組を維持。)</p>
年度	割合																	
H19	63.6%																	
H20	66.7%																	
H21	67.4%																	
H22	67.2%																	
H23	67.1%																	
H24 (目標)	65.0%																	

能代市総合計画 まちづくり点検表

1 政策のめざす姿や状態

基本目標	3	安全と安心のまち
政策	(7)	効率的で住民サービスに資する行財政基盤
めざす姿や状態	①	職員の能力を生かし、効率的な事務処理や適正な個人情報管理などにより、行政の信頼度が高いこと
一評価の目安 (^-^)^ 順調 (-_-) 横ばい (>_) 不調	②	受益と負担の関係が公平であり、市税をはじめ収入を確保できるなど、将来にわたって行財政運営を持続できること。
	③	国・県や大学、民間企業などとの連携や、他の地域との広域的な協力により、地域の課題が解決できること。
	④	財政状況や契約状況など、行政情報の透明性が高いこと。

2 指標の推移と評価、取組の改善策

(^-^)^ 順調	80	市職員は日頃仕事をよくやっていると思う市民の割合		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>市職員がよくやっていると思う市民の割合は徐々に増加している。</p> <p>これまでの市民意識調査での指摘事項の改善や職員研修等の実施により、よい方向に向かっていていると考えている。</p>	<p>目標値に向けた取り組みは順調に進んでいるが、さらに、平成22年度に策定した人材育成基本方針に基づき、市民が求める職員像（市民意識調査の上位選択項目）を目指して研修や自己研鑽を進める。</p>	<p>今後も、職員研修の推進と研修を受けやすい職場環境づくりを進める。</p>

(^-^)^ 順調	81	職員適正化計画に基づく職員数		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>職員の定員適正化計画（平成18年度策定）に基づき、これまで計画を上回る職員の削減を進めてきたが、能代商業高校の県への移管が平成23年度から平成25年度にずれ込んだため、24年度目標値の達成は1年遅れる見込みである。</p>	<p>目標値の達成は1年遅れるものの、取り組みは計画どおり進んでいる。平成23年度では、平成22年国勢調査人口（速報値）をもとに平成33年度の目標値を設定し、現在の計画との整合を図りながら、第2次定員適正化計画を策定した。</p> <p>今後も、この計画に基づき、採用職員数の抑制等により計画的な定員管理を行う。</p>	<p>今後も、第2次定員適正化計画に基づき、採用職員数の抑制等により計画的な定員管理を進める。</p>

(-_-) 横ばい	82	市税の収納率（現年度分）個人市民税		
指標の推移		推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>		<p>経済状況の悪化の影響で、個人の収入が減少しているが、平成21年度より平成22年度の収納率が向上したのは、秋田県地方税滞納整理機構との連携による滞納整理強化と考えられる。</p>	<p>今後も引き続き、納期内完納や納税意識の向上に努めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別徴収事業所の拡大。 ・公平・公正な課税と収納対策の実施。 ・インターネット公売の実施。 ・秋田県地方税滞納整理機構との連携による滞納整理強化。

(-_-) 横ばい	83	市税の収納率（現年度分）法人市民税	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>99.47% 99.57% 98.79% 99.17% 99.46% 99.60%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>基準値からは減少しているものの、平成21年度より平成22年度の収納率が向上したのは、経済状況の悪化の影響で大きく落ち込んだ企業の業績が、回復基調にあるためと考えられる。</p>	<p>今後も引き続き、適正申告や納期内完納、納税意識の向上に努めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・申告書送付時に適正申告と納税意識の啓発。 ・税務署の法人税徴収強化策との連携。

(>_) 不調	84	市税の収納率（現年度分）固定資産税	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>97.28% 97.36% 97.03% 97.13% 96.84% 97.40%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>経済状況の悪化の影響で、倒産した企業の納付がないため、収納率が低下したものと考えられる。</p>	<p>今後も引き続き、納期内完納や納税意識の向上に努めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公平・公正な課税と収納対策の実施。 ・インターネット公売の実施。 ・秋田県地方税滞納整理機構との連携による滞納整理強化。

(>_) 不調	85	市税の収納率（現年度分）軽自動車税	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>97.12% 96.93% 97.08% 97.05% 96.94% 98.00%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>経済状況の悪化の影響で、個人の収入が減少したため、収納率が低下したものと考えられる。</p>	<p>引き続き、納期内完納や納税意識の向上に努めていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公平・公正な課税と収納対策の実施。 ・適正な異動手続きのPR。 ・実態調査。

(^_) 順調	86	市の財政状況などについて情報提供が行われていると思う市民の割合	
指標の推移	推移の分析・考えられる要因	目標に向けた課題・方向性	考えられる取組の改善策
<p>31.4% 40.2% 40.6% 42.0% 41.7% 50.0%</p> <p>H19 H20 H21 H22 H23 H24</p>	<p>市の財政状況などの情報提供が行われていると思う市民の割合が横ばい状態となっている。</p> <p>これまでは、「わかりやすい予算書、能代市のことの仕事」の発行、「広報のしろ」やホームページを活用しての情報提供を行ってきたが、前年度と同じ取り組みであったため、指標が横ばいになったと考えられる。</p>	<p>新たな情報提供の方法を考えること、広報のしろや市のホームページの内容の充実に努め、かつ、見やすくわかりやすいように工夫することが必要と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元新聞社に情報を提供し、新聞記事として取り上げてもらう。 ・予算や決算、各種財政指標について、よりわかりやすく公表する。 ・最新の情報をいち早く公表する。 ・ホームページ等のレイアウトの工夫する。